

## 用語解説

### ●ワークショップ

ワークショップ(workshop)とは、もともと「職場」「作業所」「工房」を意味し、みんなで意見交換や共同作業を行いながら進める「参加体験型」学習のことをいいます。指導・被指導の関係で学ぶ学習でなく、参加者が積極的に他者の意見や発想から“学びあい”、最後にみんなで自らの“ふりかえり”をするという、学習のプロセスでの学びを大切にします。問題解決を図るとともに、態度や技能(スキル)を身につけられるという特徴があります。

### ●ファシリテーター

ワークショップを進行する人をファシリテーター (facilitator)と呼んでいます。単に進行役といってもよいのですが、「活性化させる」という意味を持つファシリテーターの方が、実際に期待されている役割に近い言葉になっています。話しあいの交通整理をする議長役だけでなく、話しあいの素材になるものを用意し、そして時間管理を行いながら全体を進行する役目をするなど、さまざまな複合的な能力が必要とされています。

### ●プログラム

ワークショップ全体としての目的やねらいを達成するために、アクティビティや講義などを組みあわせてつくる1つの流れです。学習を進めていくうえでの具体的なプロセスを示しています。

### ●アクティビティ

アクティビティとは、1つの素材、話しあいの材料を使ったまとまりのある学習活動のことで、プログラムを構成する1つの部品の役目をしています。

### ●アイスブレイキング

もとは氷を壊すという意味を持つ単語ですが、初対面どうしの人々が持つ堅苦しさやよそよそしさを氷に例えて、それを壊し、親しくなることを表します。ワークショップの中でも最初の場面で、暖かな雰囲気や、「何でも言える」、「何でも受け取ってくれる」という安心感などをつくり出す大切なアクティビティです。このアクティビティ次第で、プログラムの進行や参加者の満足感が左右されることもあります。

### ●ロールプレイ

「ロール」は役割、「プレイ」は演技の意味で、学習の内容に応じた場面(シチュエーション)を設定し、その中で参加者が役割(話し手・聞き手・観察者など)を持って演技することにより、学習目的に迫る方法です。現実の問題を模擬的に演じることにより、自分の心を感情のままに自由に表現することができ、人間関係の改善などに迫ることができます。人権に関する学習では、実際に経験したことがない場合でも、「差別」「いじめ」などの場面を設定して実施することにより、他者の立場に立って考えたり感じたりすることができ、共感的な理解を図ることができます。

## 参考文献

『ガルトゥング平和学入門』

ヨハン・ガルトゥング+藤田明史他、法律文化社、2003年(とくに、第2章「トランセンド法入門」)

『あの人と和解する一仲直りの心理学』

井上孝代、集英社、2005年

『平和を創る発想術：紛争から和解へ』

京都YMCAほーぼのぼの会、岩波書店(岩波ブックレットNo.603)

『ガルトゥングの平和理論ーグローバル化と平和創造』

ヨハン・ガルトゥング、法律文化社、2006年

『平和的手段による紛争の転換』

ガルトゥング、平和文化(国連紛争解決マニュアル本)

『トランセンド研究ー平和的手段による紛争の転換』

(トランセンド研究会により編集・発刊・発行)

『ガルトゥング平和学入門』

ヨハン・ガルトゥング+藤田明史他、法律文化社、2003年(とくに、第1章「平和とは何か」)

『いま平和とは何か：平和学の理論と実践(グローバル時代の平和学1)』

藤原修+岡本三夫他、法律文化社、2004年

『平和学の現在』

岡本三夫+横山正樹他、法律文化社、1999年

『人やまちが元気になるファシリテーター入門講座』

ちよんせいこ 解放出版社 2007年

『事業主の皆さん 職場のセクシュアルハラスメント対策はあなたの義務です!!』

厚生労働省雇用均等・児童家庭局/都道府県労働局(雇用均等室)

『上司と部下の深いみぞ パワー・ハラスメント完全理解』

岡田康子編著、紀伊國屋書店、2004年

『知っていますか?精神障害者問題ー問一答』

「知っていますか?精神障害者問題ー問一答」編集委員会編、解放出版社、1992年

『対立から学ぼう 中等教育におけるカリキュラムと教え方』

ウィリアム・クライドラー、ERIC国際理解教育センター、1997年